

# 有珠山火山防災マップを理解する

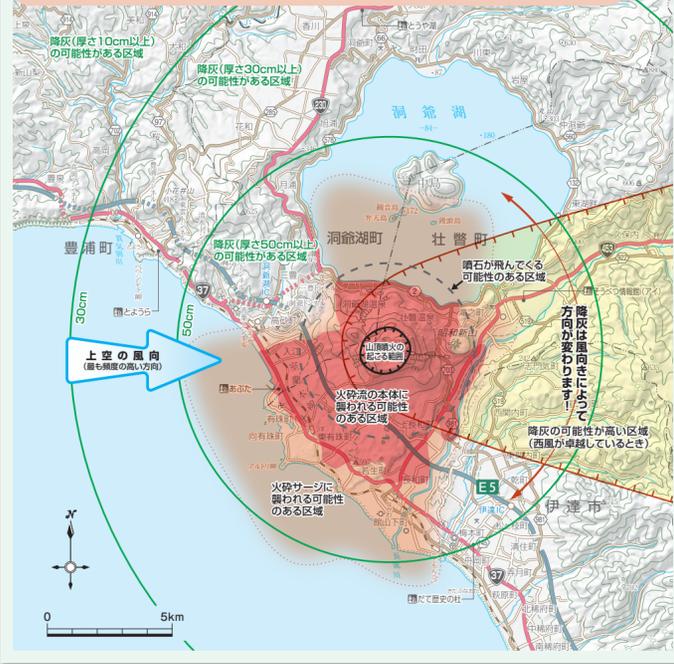
火山活動に異常が見られた場合、危険区域の外へ避難する必要があります。噴火の規模や気象条件により危険区域は変わるため、避難広報に注意してください。

## 山頂噴火の場合

### 山頂噴火のポイント!

- 火砕流・火砕サージは、山頂から全方位に広がり、広い範囲を襲います。
- 軽石や火山灰は広い範囲に降ります。上空では主に西寄りの風が吹いているので、有珠山の東側に厚く積もりやす。

この図は、文政噴火(1822年)と同じ大きさの噴火が、有珠山の山頂部で起こった場合に予想される火砕流・火砕サージ・噴石・降灰の危険区域を表わしたものです。

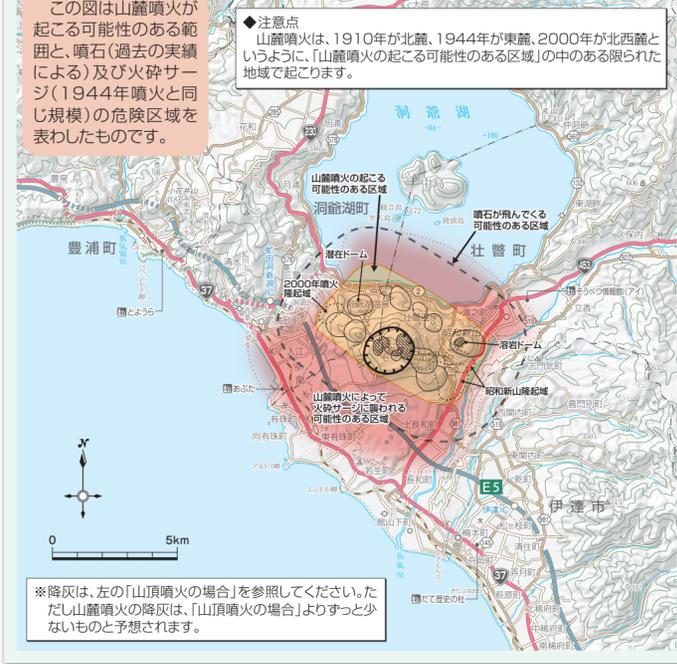


## 山麓噴火の場合

### 山麓噴火のポイント!

- 火口や溶岩ドームは下図のだいたい色の線で囲んだ範囲のどこかにできると考えられます。火口は数十個できることもあります。
- 湖岸近くでは、激しいマグマ水蒸気爆発が起こることがあります。
- 火砕サージや噴石は、できた火口の周辺を襲います。
- 火口から熱泥流が流れ出ることもあります。

この図は山麓噴火が起こる可能性のある範囲と、噴石(過去の実績による)及び火砕サージ(1944年噴火と同じ規模)の危険区域を表わしたものです。

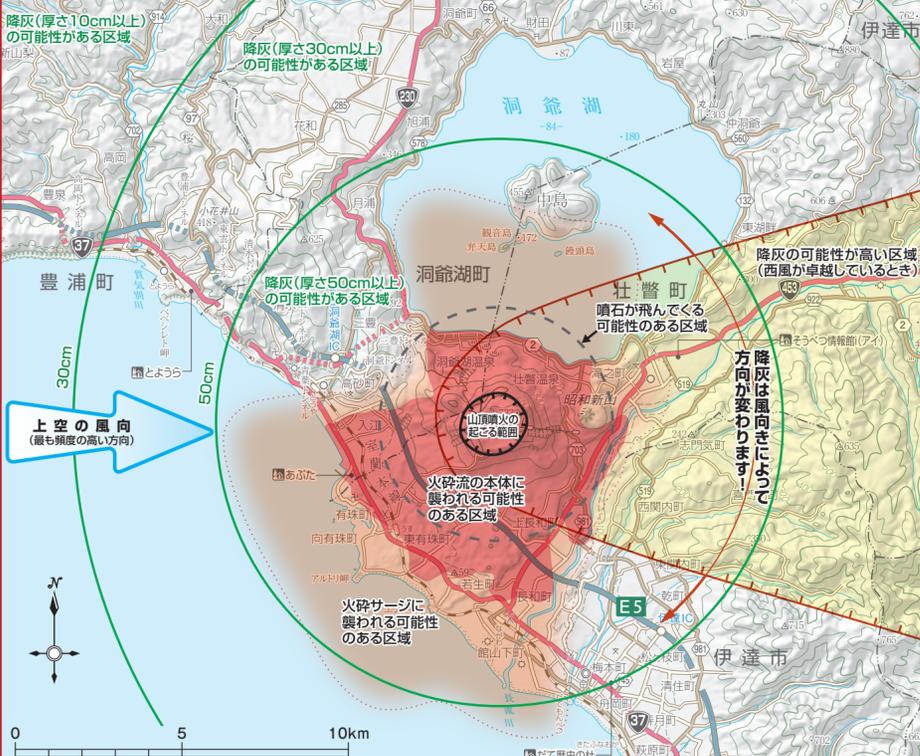


# 新たな備えのために

# 有珠山火山 防災マップ

## 山頂噴火の危険区域予測図

### 火砕流・噴石・降灰



この予測図は、1822年(文政5年)噴火と同じ規模の山頂噴火が起きた場合に、予想される災害の範囲を示したものです。噴火の規模や気象条件などによって危険区域の範囲は変わります。



## 融雪型泥流・降雨型泥流(土石流)



## 山頂噴火・山麓噴火共通

### 融雪型泥流の危険区域予測図

#### 融雪型泥流のポイント!

- 山に積雪がある季節は、火砕流により大量の雪が融けて、泥流が発生することがあります。
- 融雪型泥流は、水分が多いため流れやすく、山麓の広い範囲に到達して泥の海と化します。

右の図は、積雪のある時期に文政噴火(1822年)と同じ大きさの火砕流が発生した際に予想される融雪型泥流の危険区域を表わしたものです。

※山麓噴火の場合は、噴火の場所によって右図の範囲の一部が危険区域になります。



### 降雨型泥流の危険区域予測図

#### 降雨型泥流のポイント!

- 火山灰が積もると、雨が降るたびに泥流が発生しやすくなるので注意が必要です。
- 降雨型泥流の発生は、噴火の後、数年～十数年に及ぶこともあります。
- 火山灰は広い範囲に積もるので、地図上に示してある危険区域外の沢や谷でも、降雨時には泥流に注意してください。

右の図は、大雨が降ったときに予想される降雨型泥流の、有珠山麓の危険区域を表わしたものです。少ない雨でも泥流は発生しますが、危険区域は小さくなります。



### 降灰すると...

- 直接人命に関わることはありませんが、少量の火山灰でも呼吸器に影響が出ます。
  - 電気・電子機器への影響が出ます。
  - 自動車等の交通機関がマヒします。
- その上、雨が降ると...
- 水分を吸って重くなり、家屋倒壊の危険性が増します。
  - 自動車はスリップして走れなくなります。

### 降灰分布は風向きによってさまざまに変化します



高さによって風向きが異なるとき



### 有珠山から離れた地域では

- 風向きによっては豊浦町や洞爺湖町洞爺町周辺あるいは伊達市の市街地にも降灰が広がる可能性があります。
- 火山灰が積もると少量の雨でも泥流が発生しやすくなるので注意が必要です。
- 大規模な火砕流や岩屑なだれが洞爺湖に流入したり、大地震や湖岸の大崩壊が生じた場合、あるいは湖底で噴火が発生した場合には、湖岸一帯を津波(大波)が襲うことがあります。

## 噴火警戒レベルとは

噴火警戒レベルは、火山活動の状況に応じて「警戒が必要な範囲」と防災機関や住民等の「とるべき防災対応」を5段階に区分して発表する指標です。

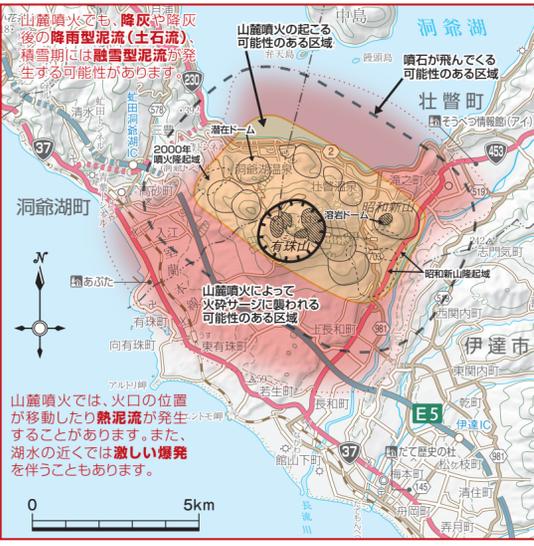
| 種別   | 名称                 | 対象範囲                                     | 火山活動の状況   | レベル(キーワード)        |
|------|--------------------|--|---|-------------------|
| 特別警戒 | 噴火警戒(居住地域)又は噴火警戒   | 居住地域及びそれより火口側                            | 居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。  | レベル5(避難)          |
|      |                    | 居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。 | レベル4(避難準備)  |                   |
| 警戒   | 噴火警戒(火口周辺)又は火口周辺警戒 | 火口から居住地域近くまで                             | 居住地域近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生することがある。  | レベル3(入山規制)        |
|      |                    | 火口周辺                                     | <噴火発生前><br>居住地域に重大な被害を及ぼすマグマ噴火に移行する可能性がある。<br><噴火発生後><br>噴出物の飛散が火口近傍に留まる程度のごく小規模な水蒸気噴火が発生することがある。 | レベル2(火口周辺規制)      |
| 予報   | 噴火予報               | 火口内等                                     | 火山活動は静穏。火山活動の状況によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。                                       | レベル1(活火山であることに留意) |

### お問い合わせ先

- 伊達市/危機管理室.....0142-23-3331
- 壮警町/総務課.....0142-66-2121
- 洞爺湖町/危機管理室.....0142-74-3004
- 豊浦町/地方創生推進室.....0142-83-1417

この防災マップは、「有珠山火山防災マップ(平成14年2月作成)」と「有珠山地域防災ガイドブック(平成15年3月作成)」をともに背景地図や構成等を見直ししたものです。令和3年3月作成  
制作:有珠山火山防災協議会  
©有珠山火山防災協議会  
監修:北海道防災会議地震火山対策部会火山対策専門委員会  
写真提供:宇井忠英・三松正夫記念館・大森秀吉・若村孝太郎・北海道国際航業株式会社  
©有珠山地域防災ガイドブック  
監修:修善井義雄・宇井忠英・岡田弘・新井田清信・三松正夫記念館・札幌管区気象台・北海道・上富良野町・国際航業株式会社

## 山麓噴火の危険区域予測図



### 火口の位置によって危険区域は変わります!

山麓噴火はある限られた地域で起きるので、この危険区域全体が同じように危険だということを示しているわけではありません。火口の位置については事前に特定することが出来ないのが昭和  
新山噴火と同じくらいの規模の「山麓噴火」が起こる可能性のある範囲」の全域を総合して示してあります。実際の山麓噴火では、火口の位置によってこの図の一部分が噴石や火砕サージの危険区域となります。噴火がはじまった場合には、火口の位置にあわせた危険区域があらためて示されます。噴火の規模などによっても、危険区域の範囲は変わります。



## 火山現象に関する警報等の種類

火山現象に関する情報は、「噴火警報」、「噴火予報」、「噴火速報」、「降灰予報」、「火山ガス予報」、及び「噴火警戒レベル」等があります。

- 噴火警報**: 噴火警報は、噴火に伴って、生命に危険を及ぼす火山現象の発生が予想される場合やその危険が及ぶ範囲の拡大が予想される場合に「警戒が必要な範囲」を明示した上で、噴火警戒レベル2～5のいずれかを付して発表します。
- 噴火予報**: 噴火予報は、火山活動の状況が静穏である場合、あるいは噴火警戒レベルには及ばない程度ではあるが、火山活動の状況等を周知する必要があると認める場合に噴火警戒レベル1を付して、発表します。
- 噴火速報**: 登山者や周辺の住民に対して、噴火の発生をお知らせする情報です。噴火が発生した事実を速やかにお知らせするため、火山名と噴火した時間の情報です。
- 降灰予報**: 噴火により、どこにどれだけ量の火山灰が降るか(降灰量分布)や、風に流されて降る小さな噴石の落下範囲の予測を伝える情報です。
- 火山ガス予報**: 居住地域に長時間影響するような多量の火山ガスの放出がある場合に、火山ガスの濃度が高まる可能性のある地域を発表します。